第５回研究会

里山と〈ミクロコスモス〉の思想

―社会思想の立場から―

龍谷大学社会学部准教授・里山学研究センター研究スタッフ
村澤　真保呂

（要旨）

本発表では、まず発表者の専門研究領域である19世紀末の社会学成立史に関するトピックとして、フランス社会学の成立に大きな影響を与えた事件である「社会唯名論と社会実在論の論争」について、その論争で敗北し現代にいたるまで忘却され、かつ近年になってポスト近代の社会思想として再評価されつつある「社会唯名論」の議論を紹介した。次いで、その議論が近代社会思想とは異質の思想的伝統に由来することに着目したうえで、その源流にあるのが中世ヨーロッパ神学の鍵概念となる「ミクロコスモス」の思想であることを明らかにし、それが近代社会の成立にあたって抑圧されていく経緯をたどるとともに、現代においてポスト近代の思想として新たな装いをまとって復活しつつある背景について検討した。とりわけ、近代社会をつくりあげてきた思想に内在するさまざまな矛盾について整理し、そこから環境問題や社会問題が必然的にもたらされる思想的背景を示すことにより、近代社会思想において啓蒙の対象として侮蔑されてきた「前近代的なもの」「非近代的なもの」の再評価の方向性と、社会思想史における里山研究の意義について論じた。